

安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン改定素案 第7回、第8回小委員会での主な意見と対応案

ページ	大項目	項目	委員からの意見	小委員会回数	対応	内容
16	改定のポイント	シン・ファミリーフレンドリー	・「家族が暮らしやすい」が「一人暮らしも暮らしやすい」に直結しないようにも思う。全てを書くことは難しいというのは分かるため、例えば「様々な形の家族」といったフレーズでも良いと思う。	第7回		<p>・「シン・ファミリーフレンドリー」は、「家族が暮らしやすい社会を実現することは、誰にとっても暮らしやすい社会につながる」という考え方で、「家族」には、子供の有無や人数、性別に関わらず、様々な形態の家族が含まれると考えています。</p> <p>・例示があることによって、特定の形態を想起させてしまうことから、例示を削除し、補記を追加しました。</p> <p>・なお、現に広島に住んでいる、住んでいないに関わらず、広島に魅力を感じてもらい、将来的に広島に住みたい、関わりたいと思ってもらえるような県にしたいという考えから、冒頭にも「本県の魅力を高め」を追加しました。</p> <p>【修正後】</p> <p>・本県の魅力を高め、様々な家族が暮らしやすい社会を実現することは、誰にとっても暮らしやすい社会につながります。ひいては、本県を訪れる人にとっても、本県に関わる人にとっても、魅力的に感じてもらえる「シン・ファミリーフレンドリー」な広島県を創っていきます。</p> <p>※ ここでいう「家族」とは、子供の有無や人数、性別に関わらず、様々な形態の家族を言い、こうした家族が暮らしやすい社会を実現することで、県民一人一人が暮らしやすい社会につなげたいという考え方です。</p>
16	改定のポイント	シン・ファミリーフレンドリー	・今インクルードされていない人たちがインクルードされるという希望を表現しなくていいのか。「同性パートナー」や「共働き」よりも、「高齢者」や「障害者」という言葉を選ぶことが、今回のシン・ファミリーフレンドリーの趣旨に本当に合致しているのかは問題提起したい。	第7回		
16	改定のポイント	シン・ファミリーフレンドリー	・同性カップルやパートナーであるとか、マイノリティと言われている方々の表現を入れる方が、新しいように感じられると思う。	第7回		
16	改定のポイント	シン・ファミリーフレンドリー	・子供がいない生活を志向する若者もいるとしたら、今の表現で良いのかは気になった。	第8回	ご意見を踏まえて、修正	
16	改定のポイント	シン・ファミリーフレンドリー	・「県民の皆様を包み込む」といったフレーズを入れることで、全体を網羅するようなニュアンスが出てくるのではないかと感じた。	第7回		
16	改定のポイント	シン・ファミリーフレンドリー	・一番重要なところは「誰にとっても暮らしやすい社会」だと思う。	第7回		
16	改定のポイント	シン・ファミリーフレンドリー	・家族がターゲットになっているが、最終的には「誰にとっても暮らしやすい社会、暮らしやすい広島」ということが押されるようになればいいと思った。	第7回		
16	改定のポイント	シン・ファミリーフレンドリー	・「誰もが暮らしやすい」のところにフォーカスされるよう、むしろ家族の例示をなくすということも考えられると思う。	第7回		
16	改定のポイント	シン・ファミリーフレンドリー	・「シン・ファミリーフレンドリー」をテーマにしていくという話をしている以上、「ファミリー」に注目して、そこをテコにそうでない方々も暮らしやすいというのを創るとするのがメッセージであり、「この人たちのことはどうなのか？」という話をしていても仕方がないと思う。	第8回		
16	改定のポイント	シン・ファミリーフレンドリー	・「誰にとっても暮らしやすい」のところに着目していただけるような書きぶりとか、強調するとか、メッセージの見せ方が重要だと思った。	第8回		
16	改定のポイント	シン・ファミリーフレンドリー	・「シン」に「親しむ」という要素を入れてはどうか。	第7回	現行案どおり	<p>・「シン・ファミリーフレンドリー」の「シン」は、これまでの「ファミリー・フレンドリー」を、社会経済情勢の変化を踏まえた取組に「深(シン)化させ、これまで以上に進(シン)展、浸(シン)透させる」という、広島県の取組姿勢を表現しているため、現行案のままとさせていただきます。</p> <p>・なお、「シン・ファミリーフレンドリー」は「誰にとっても暮らしやすい社会につなげていく」という考え方であり、ご意見のとおり、県民の方に親しみをもってもらえる広島県を創っていきたくと考えています。</p>

ページ	大項目	項目	委員からの意見	小委員会回数	対応	内容
28～29	改定のポイント	重点項目の「若者に選ばれる」	・義務的に教育を受けるだけでなく、楽しみながら学ぶということが、暮らしの質や生涯学習にもなるので、若者が楽しみながら「学び、」暮らし、・・・といった形にしてはどうか。	第8回	ご意見を踏まえて、修正	【修正後】 若者が楽しみながら <u>学び</u> 、暮らし、働くことができる広島県の実現に取り組みます。
28～29	改定のポイント	重点項目の「女性に選ばれる」	・「若者に選ばれる」は記載量も多く、広島らしさが非常に出ておりイメージしやすいため、「女性に選ばれる」と「子育てしやすい」も、もう少し広島らしさが出るといい。 ・どのような「働きやすい」が女性にとっていいのかが入ると良いと思う。 ・女性のキャリア形成、ジェンダーギャップも含めて、女性をどのように後押しして、だから女性に選ばれる広島県だよということが分かるようにされると良い。	第8回	ご意見を踏まえて、修正	【修正後】 ・しかし、近年、本県の女性の就業率は着実に上昇しているものの、 <u>依然として、男女間の管理職及び役員に占める割合の差や賃金格差が存在しているほか</u> 、家庭での家事・育児は女性に偏っている現状があります。 ・そのため、 <u>性別に関わらず誰もがライフイベントと両立しながら働くことができるよう、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方を促進し、出産や育児等により離職した女性の再就職の支援や企業内での登用促進、男性の育児休業の取得促進などに取り組みます。</u> ・ <u>あわせて、固定的な性別役割分担意識や性別によるアンコンシャス・バイアスの解消を図るとともに、「共家事・子育て」の定着などを促進し、女性の社会における更なる活躍や子供を持ちたいと思う希望の実現に向けて取り組みます。</u>
28～29	改定のポイント	重点項目の「子育てしやすい広島県」	・広島ネウボラをすく推進しているわけなので、妊娠期から産後育児期までの支援を広島独自の方法で強化していく、だから広島県は他と違う、という差別化みたいなことが表せると良い。 ・自然豊かな環境での子育て、自然に近いところでの子育てとか、そういう文言が入ってくると、自然の中で子育てをしたい世帯は何かイメージが湧きやすい。	第8回	ご意見を踏まえて、修正	【修正後】 ・本県の人口減少の要因の約9割は自然減によるものであり、人口減少の抑制に向けては、妊娠・出産、子育てに関する希望を実現しやすい社会であることだけでなく、多くの人が子供を持ちたいと思ひ、安心して子供を持つことができる社会にすることが重要です。 ・そのため、 <u>将来への経済的不安の軽減や、不妊の悩みを相談でき、早期に検査・治療を受けることができる環境整備、妊娠期から子育て期まで見守られ、支援されていると感じられる仕組みの構築、地域社会全体で子育てを応援する機運の醸成など、子供を持ちたいという希望の実現を阻害する課題への総合的な対策を講じます。</u> ・ <u>あわせて、子育て世代が、都市と自然が近接する広島県での</u> 日々の暮らしや子育てが楽しいと感じられる環境づくりに取り組みます。
30	体系図	重点項目の「広島の財産と経験の継承」	・体系図の中にも「広島の財産と経験の継承」の表題があると良い。	第7回	ご意見を踏まえて、修正	・体系図に「広島の財産と経験の継承」の表題を追加しました。
～49	全体	「県民の皆様」の記載	・対象が客体化していて、「県民と協働しながら一緒に新しい広島県づくりを推し進める」という姿勢からは遠いような気がする。県民一人一人という表現に変えてもらったほうが良い。	第7回	ご意見を踏まえて、修正	・「県民一人一人」という表現に修正しました。
50～	施策領域	ビジョンの指標	・各領域の指標について、今回はビジョンの見直しということで、これまで設定していた指標を残しているというものもあると思うが、たくさん指標がある領域と、1個しかない領域がある。 ・今回は見直しなので、指標として残すところは残しつつ、施策ごとに新たに織り込んでいくということであればそれでもいいと思うが、平仄があるといいと思った。	第7回 第8回	ご意見・ご質問に対する回答	・ビジョンに掲げる指標は、施策領域の「目指す姿」の状態を定量的に測定するための長期のアウトカム指標として設定し、目標値は5年間の進捗を測るために現状値等の実態を踏まえて設定しています。 ・ <u>この度のビジョン改定に当たっては、新たに目指す姿を設定したことに伴う指標の設定や、ビジョン策定後の5年間の環境変化や取組の進捗状況を踏まえた目標水準の見直し等を行っております。</u> ・一方で、今回は計画期間内の改定であることから、現行ビジョンの継続性も重視しており、また、施策領域で掲げる目指す姿や指標の性質によっては、目指す姿に対する指標の数が異なっています。 ・なお、指標には、県の施策効果を直接測れないものもあると認識しています。 ・本県では、ビジョンの実行計画として、5年間の「アクションプラン」を策定しており(ビジョン改定に合わせて新たに策定予定)、その中で17の施策領域の取組の方向ごとに、施策の進捗状況や施策効果を測ることができるようなKPI、さらには、それに紐づく事業ごとに事業目標を設定しており、それらによって毎年度のPDCAサイクルを回していきたいと考えております。

ページ	大項目	項目	委員からの意見	小委員会回数	対応	内容
52	施策領域	子供・子育て	<p>・指標の「安心して妊娠、出産、子育てができると思うものの割合」について、令和2年が74%で現状が73%、これを84%に引き上げるとい目標を掲げているが、残りの20%の人たちが安心してできないと言っているのはなぜか。</p> <p>・山間部や島しょ部などに住んでいる方で、病院が減っているのが心配で、だから安心と言えないんだ、ということであれば、こうした子育て施策をやっても改善しないのではないか。</p>	第7回	ご意見・ご質問に対する回答	<p>・アンケート調査を行った際に「そう思わない」との回答に対しては、その理由を調査しており、主には次の理由が挙げられています。</p> <ul style="list-style-type: none"> -市町や保健センターによるサポートを受けたことがないため -周田や社会から子育てを見守ってもらえているという感覚がないため -保健センターやネウボラを知らないため、困った時にどこに(誰に)相談すればいいかわからないため <p>・このため、「目標設定の考え方」とおり、「ひろしまネウボラ」の構築や「共家事・子育て」の定着などの子供・子育て施策を総合的に推進することにより、子育て家庭が多面的に見守られ、子育てしやすい環境整備が進むことで、安心して妊娠、出産、子育てができると思うことにつながると思っています。</p>
51～54	施策領域	子供・子育て	<p>・結婚したい人ができない理由の1つとしては出会いの場がないということが抜けているのではないかと思う。出会い・結婚のきっかけが、友達からの紹介や婚活アプリだという人が非常に増えていると思う。そのあたりの出会いの支援というのもあって良いと思った。</p> <p>・県や金融機関のような信頼性のあるところが支援しているアプリであれば、利用する人も増えると考えられる。そういうことも県としてできるのではないかと思った。</p> <p>・市町の小さい単位で婚活イベントがあっても、結局同じ人たちが毎回来ているとか、参加を知られたくないとか、小さい単位の中ではそういう問題が起こっていくので、県として結婚前のマッチングの部分の支援というのが何か必要なのではないかと思った。</p>	第8回	ご意見・ご質問に対する回答	<p>・これまで県においては、若者の出会いの機会の創出を支援し、結婚を希望する若者の出会いのきっかけづくりに取り組んできましたが、未婚化の背景には、様々な要因が複雑に絡み合って影響していると考えられることから、今年度、県民の結婚の意識に関する調査を実施したところです。</p> <p>・この調査においては、結婚へのハードルとして、「出会いの場所・機会がない」と回答する者が最も多く、そう感じる理由を深掘りすると、単に場所や機会がただだけではなく、「自分から積極的にアプローチすることが得意ではない」や「自分に自信がない」など、当事者の内面的な理由が主な要因となっていることが明らかとなっています。</p> <p>・また、SNS等の影響によって、結婚へのハードルの高さを感じたり、ネガティブなイメージを持ったりすることで、結婚に向けた行動を躊躇してしまうという実態が明らかとなっており、<u>今後は、これまでの取組に加えて、若い世代の結婚に関するポジティブなイメージの浸透に向けた普及啓発に取り組むこととしています。</u></p> <p>・なお、マッチングアプリについては、出会い支援の方法の一つですが、既に多くの民間の婚活事業者が導入している中で、行政が導入する必要性や利点などを含め、慎重に検討する必要があると考えています。</p>
28～29 55～58	施策領域	重点項目の「女性に選ばれる広島県」教育	<p>・働く環境整備と言えば待機児童の問題や家庭での役割分担といったことがまず挙げられるが、新たな課題として子供が登校できず、学校に送り届けなければならないため、フルタイムの勤務が難しいなど課題も出てきていると思う。行政としても状況を把握し、知恵を絞っていただけたらありがたい。</p>	第7回	施策実施段階で検討、実施	<p>・引き続き、「目指す姿の実現に向けた取組の方向」の「誰もが安心して学習できる環境づくりの推進」の中で、不登校児童生徒に対する支援として、多様なニーズに応じた教育機会の提供や生徒指導の充実による安心して学習できる環境づくりなどに取り組みます。</p> <p>・また、保護者が子供の状況に応じた柔軟な働き方が可能となるよう、企業における多様な働き方の取組の活用が図られる環境づくりを進めていきます。</p>
55～58	施策領域	教育	<p>・子供にいい教育を受けさせたい、スポーツが強い地域で育てたいというモチベーションもあるのではないかと思うが、方向性として重視しているのであれば、もう少し方針の中に盛り込んでもいいのではないかと思う。</p>	第8回	ご意見を踏まえて、修正	<p>・新たな取組として、多様な体験・学びができる教育環境の整備について、「目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題」及び「目指す姿の実現に向けた取組の方向」に追記しました。</p> <p>【修正後】 「目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題」 <u>加えて、少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化し、産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップや理系人材の不足が生じる可能性が指摘されています。</u></p> <p>「目指す姿の実現に向けた取組の方向」 <u>加えて、AIなどのデジタル技術を活用して、ものづくり等の地域産業の持続的な成長を牽引する専門人材や、地域の持続的な発展を支える人材など多様な人材を育成するため、県立高等学校の統合と学科改編を組み合わせるなどにより、生徒が授業等において一定の選択幅を持つことができ、集団の中で切磋琢磨しながら多様な体験・学びができる教育環境の整備に取り組みます。</u></p>

ページ	大項目	項目	委員からの意見	小委員会回数	対応	内容
55～58	施策領域	教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特色のある取組で効果も出ており、今後も続けていく予定の取組ならば是非盛り込んでいただきたい。 ・県立大学のことも含めて、しっかりと広島県の教育のビジョンを書き込んで、魅力のある県だと思っていただくのも大事だと思う。 	第8回	ご意見を踏まえて、修正	<ul style="list-style-type: none"> ・高等教育の魅力向上に向け、県立広島大学及び観音寺大学はもとより、県内大学・短期大学において、それぞれの強みや特色を生かした教育が行われ、県内外から多様な人々が集まる状態を目指すことを「目指す姿」に追記しました。 【修正後】 <u>県立大学はもとより、県内の大学・短期大学</u>それぞれが持つ強みや特色を生かした教育～(略) ・新たな取組として、多様な体験・学びができる教育環境の整備を「目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題」及び「目指す姿の実現に向けた取組の方向」に追記しました。 【修正後】 「目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題」 <u>加えて、少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化し、産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップや理系人材の不足が生じる可能性が指摘されています。</u> 「目指す姿の実現に向けた取組の方向」 <u>加えて、AIなどのデジタル技術を活用して、ものづくり等の地域産業の持続的な成長を牽引する専門人材や、地域の持続的な発展を支える人材など多様な人材を育成するため、県立高等学校の統合と学科改編を組み合わせるなどにより、生徒が授業等において一定の選択幅を持つことができ、集団の中で切磋琢磨しながら多様な体験・学びができる教育環境の整備に取り組みます。</u> ・県立大学における人材育成の取組について、「目指す姿の実現に向けた取組の方向」に追記しました。 【修正後】 <u>県立大学において、時代の要請に応え、社会で活躍できる人材を継続的に育成するとともに、～</u> (略)
62	施策領域	医療・介護	<ul style="list-style-type: none"> ・「県内医療に携わる医師数」について、現状値が既に目標値を超えている。下げることを目標とすることは変なので、配置についての目標にするとか、今後、実施計画の方で議論してもいいのではないか。 	第7回	施策実施段階で検討、実施	<ul style="list-style-type: none"> ・国が示した本県の必要医師数の推計値は、性別や年代ごとの平均労働時間や地域ごとの患者数の推計値から算出した医師偏在指標を基に示されたものであり、目標値は今後の人口減少等も踏まえた数になっています。 ・また、R6の厚労省の医師等統計調査では、県内の80歳以上の医療施設従事医師数は249人(85歳以上は107人)であり、今後の高齢医師の引退などを見据えると、ある程度の医師数を維持することも必要となります。 ・以上のことから、現在の指標は適切な目標値と考えていますが、来年度、保健医療計画の中間見直しを予定しており、国から示されるガイドラインなどを基に指標も含めて内容を慎重に検討していきたいと考えています。
62	施策領域	医療・介護	<ul style="list-style-type: none"> ・「医療や介護が必要となっても安心して暮らし続けられると思う者」の割合について、現状値に対して目標値が高いのではないか。 	第7回	ご意見を踏まえて、修正	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート手法を対面調査(R2)からインターネット調査(R6)に変更したことにより、現状値が下振れしていると考えています。 ・R12目標値は令和2年度調査結果を基に算出していましたが、令和2年度の目標設定の考え方を継続しつつ、最新の令和7年度調査結果数値に基づき、目標値を再設定しました。 【修正前】 R2現状値:55.6% ⇒ R12目標値:82.0% 【修正後】 R6現状値:36.2% ⇒ R12目標値:65.0%
64	施策領域	地域共生社会	<ul style="list-style-type: none"> ・「性別」の脚注の後半に「連携」という表記があるが、ここは「連帯」とか「同調」の方が表現として適切と考える。 	第7回	ご意見を踏まえて、修正	<ul style="list-style-type: none"> ・「恋愛」の誤字のため、「恋愛」に修正しました。

ページ	大項目	項目	委員からの意見	小委員会回数	対応	内容
81	施策領域	観光	・観光の施策領域の取組の方向④「3つの柱を支える土台づくり」について、4つの取組の方向があるにも関わらず、3つの土台と言っているため、初めて読んだ人が分かるよう、説明を入れていただくか、3つの取組に統合されると良いと思う。	第8回	ご意見を踏まえて、修正	・まず、ひろしま観光立県推進基本計画に定める「4つの施策の方向性」である、「ブランド価値の向上につながる魅力づくり」、「誰もが快適かつ安心して楽しめる受入環境整備」、「広島ファンの増加」、及び「3つの柱を支える土台づくり」の体系を示せるよう、取組の方向の順番を修正しました。 ・その上で、多彩な食資産が十分に評価されていないという課題を踏まえた新たな取組の方向である、「おいしい！広島」の推進を⑤としました。 【修正後】 ①ブランド価値の向上につながる魅力づくり ②誰もが快適かつ安心して楽しめる受入環境整備 ③広島ファンの増加 ④3つの柱（「ブランド価値の向上につながる魅力づくり」「誰もが快適かつ安心して楽しめる受入環境整備」「広島ファンの増加」）を支える土台づくり ⑤「おいしい！広島」の推進
81	施策領域	観光	・第3種という地域限定の旅行業者がいるように、地元愛がある旅行業者を支援していくというのも面白いと思う。	第8回	施策実施段階で検討、実施	・本ビジョンは観光施策の基本的な方針を示すものであるため、地域密着型の旅行業者をはじめとする観光関連事業者との連携や支援については、施策の実施段階において検討してまいります。
22, 79~81	施策領域	観光	・観光客がストレスなくということ書いてあるが、観光客だけでなく地域住民がストレスなく、というような表現にできないか、検討いただきたい。	第8回	ご意見を踏まえて、修正	【修正後】 観光客や地域住民がストレスなく快適に過ごすための環境整備～(略)
82~85	施策領域	スポーツ・文化	・生涯学習は「あらゆる世代が楽しみ、地域に誇りを持つことができる魅力づくり」に密接に関わるものだと思うため、生涯学習についての記載を追加していただきたい。 ・追加することが難しければ、もう少し身近なところであらゆる世代が楽しみ地域に誇りを持つことができる魅力づくりというのを出すことができれば良いと思うため、取組の方向④「文化芸術を楽しむ機会の充実と魅力発信に県北の博物館や県立図書館なども追記していただけると良いと思った。	第8回	ご意見を踏まえて、修正	【修正後】 若者やファミリー層など、幅広い世代のニーズに応じた身近な文化芸術の魅力発信に取り組むとともに、美術館や縮景園等での鑑賞機会の充実や文化芸術活動の発表機会の提供、 <u>博物館や資料館等での歴史文化に触れる機会の提供</u> などを通じて、～(略)
82~85	施策領域	スポーツ・文化	・広島県には強いプロスポーツチームがたくさんあり、それは大きな資産であると思う。AIの時代では、人間はエモーション(感情)が動かされることに、使う時間が増えるといったことが言われているので、強いスポーツチームを、地元で家族や親戚、友人と応援することができるということを、政策を通じてアピールすると良いと思う。	第8回	施策実施段階で検討、実施	・広島県の強みである数多くのプロスポーツや実業団スポーツなどが活躍することで、県民への熱狂や感動を享受するスポーツの力により、地域への愛着や誇りへの醸成に結びつけることとしております。 ・なお、アスリートと触れあえる機会創出やエモーションを意識した情報発信など、県民への応援環境の充実を図り、県民の満足度向上を図ることとしています。
84	施策領域	スポーツ・文化	・目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題の上から6つ目の○(マル)について、直接体験の意義が再評価されているとか、あるいは豊かさや実感が十分に広がっていないという表現があるが、これらは、以前から重要と言われていることであるため、「こういう機会はあるけれども、十分に生かされていない。だから、生活にゆとりを持たせる心の、潤いを感じられるような機会づくりによって、県民の誇りを持たせる。」といった表現に変えていただきたい。	第8回	ご意見を踏まえて、修正 現行案どおり	・文化庁の文化芸術推進基本計画(第2期)において、「文化芸術の持つ本質的価値の重要性が再認識された」と整理されていることから、「再認識」に修正しました。 ・「豊かさをもたらされているという実感が十分に広がっていない」については、県民の豊かさを実感している割合が58.5%(R6県文化芸術課調べ)にとどまっていることを踏まえ、解決すべき課題として記載しており、当該表現については現行案のとおりとさせていただきます。
85	施策領域	スポーツ・文化	・目指す姿の実現に向けた取組の方向の③スポーツ競技力の向上について、「スポーツ医・科学」だと、お医者さんのスポーツ医に取られかねないため、医学・科学にした方が、分かりやすく、親切だと思う。	第8回	現行案どおり	・競技力向上の取組については、県スポーツ協会の「スポーツ医・科学委員会」と連携して実施しており、また、スポーツ庁の「第3期スポーツ推進計画」でも、「スポーツ医・科学」と表記されていることから、統一性の観点から、現行案のとおりとさせていただきます。

ページ	大項目	項目	委員からの意見	小委員会回数	対応	内容
86	施策領域	平和	・目指す姿の1行目の「核兵器問題が人類及び地球全体への持続可能性の脅威であるという認識のもと」とあるが、「持続可能性が危うくなる」ということを言いたいのであれば、「地球全体の持続可能性に対する脅威」とか、「地球全体の持続可能性への脅威」とか、そういった表現がいいと思う。	第8回	ご意見を踏まえて、修正	【修正後】 核兵器問題が人類及び地球全体の持続可能性に対する脅威であるという認識のもと、
86～87	施策領域	平和	・「国際平和拠点」と「センター機能」という2つの言葉があるが、同じものなのか、違うのか、ここを読んだだけでは分かりにくい。 ・同じものを意図しているのであれば同じ言葉を加えたほうがいいし、「センター機能」に新たな意味を持たせているのであれば、少し説明を加えた方がいいと思う。 ・特に、新しくできたHopeでの取組と県の取組がどう関わるのかは多くの方が気にするポイントだと思うので、どういう形で連携するのか、明確に分かる記述の方がいいと思う。	第8回	現行案どおり	・「センター機能」については、「国際平和拠点としての役割」を発揮していくための具体的な組織の機能を指しており、「国際平和拠点」とは異なるものです。 ・また、HOPEと県の連携については、核兵器廃絶に係る事業において、今後も県のオーソリティを最大限活用し、基本的に、県とHOPEの共催で事業を実施する予定であることから、「取組の方向」は現行の記載のままとさせていただきますが、「用語集」のHOPEに関する説明を、設立経緯や役割が分かりやすいよう修正しました。 【参考：用語解説(修正後)】 ・一般社団法人へいわ創造機構ひろしま(略称「HOPE」)…令和7年11月に、広島県などにより設立された一般社団法人。広島が国際平和拠点として期待される役割を発揮していくため、平和に関する資源の集積機能等を備え、国連においてNGOとして活動することなどを目指して法人化した。
87	施策領域	平和	・取組の方向③「広島が有する経験や資源を生かした次世代平和人材の育成」について、「担う」という言葉を使っているが、やらされ感を感じる。やってくれと言っているように感じる。 ・国際社会において活躍できるとか、貢献できる、みんなが期待をしているといったニュアンスの言語選択をしていく方がいいと思う。	第8回	ご意見・ご質問に対する回答	・「将来を担う」という文言は、文部科学省等でも採用されており、表現の統一性の観点から、現行案のとおりとさせていただきます。
88	施策領域	働き方改革・多様な主体の活躍	・指標の中に「経営上の成果が現れている企業の割合」とあるが、これは非常に主観的なもので、とても評価が難しいものだと思うが、どのように測るのか。 ・人的資本情報の開示に中小企業がどの程度取り組んでいるのか、そういったものを開示していれば、新卒・中途入社含め就職する人たちが関心を持ってくれるので、こうした客観的に把握できる指標の方が、県内企業のアピールにつながるのではないかと思います。	第8回	ご意見・ご質問に対する回答	・本ビジョン指標は、県が実施する職場環境実態調査において、「従業員の定着率の向上」や「財務指標の向上」などの質問項目により、経営上の成果につながっているかを測定することとしています。 ・また、企業の具体的な行動変容を把握するため、KPI(ビジョンに掲げる指標の下位指標)として「人的資本経営の情報開示を行った企業数」を設定しています。
91～93	施策領域	産業イノベーション	・アウトプットの指標として賃上げのことを書いてほしい。 ・企業の賃上げ自体を県が何かできるものでないと思うが、産業イノベーション、働きやすさ或いは多様な人材による新しい付加価値の創造の結果として、賃上げが実現できるということを書いてほしい。	第8回	ご意見を踏まえて、修正	・目指す姿の実現に向け、指標として掲げている新たな付加価値の創出等を進めることにより、働く人の賃金水準の向上にもつながるものと考えられることから、その旨を目指す姿及びその実現に当たって考慮すべき課題に記載しました。 【修正後】 (目指す姿(5年後)) ・AIやデジタル技術等の技術革新などによる急激な環境変化に対応した「イノベーション立県」の実現や更なる進化に向け、イノベーション力を強化し、県内産業の生産性の向上や、新たな付加価値の創出などを進めることにより、働く人の賃金水準の向上の実現や、魅力的な仕事や雇用の場を創出し、県経済が持続的に発展しています。 (目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題) ・物価高や人手不足、先行き不透明な国際情勢の中で、人的・資金的な資源も限られている県内企業が、組織風土改革や業務効率化を通じたイノベーションにより、付加価値を創出し、持続的な賃上げにもつなげていく必要があります。
92	施策領域	産業イノベーション	・「県の取組分野における付加価値の推計額」が1兆1,800億円とあるが、同じページの指標「県の取組による付加価値創出額」と金額も異なり、違いが分からないので、もう少し親切に説明を記載してほしい。	第8回	ご意見を踏まえて、修正	【修正後】 (R2)1兆1,800億円 (R12)1兆6,800億円 ※ R12からR2の差額を付加価値創出額とし、R12目標値として5,000億円を設定している。

ページ	大項目	項目	委員からの意見	小委員会回数	対応	内容
91～93	施策領域	産業イノベーション	・デジタル化の推進も含めて、人手不足を人の採用で解消するというのは日本全体で不可能なので、効率性の悪い企業を集約することで規模の経済を働かすとか、人が要らない会社になることを指導をしていくとか、もっと強い経営基盤を各企業が作っていくということに広島県自体もコミットするというのを、もう少し書き込み、実際の施策にも反映していただけたらいいと思う。	第8回	現行案どおり	・「中小企業・小規模企業の経営改善による生産性の向上」に記載している、「持続的な経営改善」には、ご意見の趣旨を含めていることから、現行案のとおりとさせていただきます。
94～97	施策領域	農林水産業	・広島和牛をブランディングすることも必要だが、背景に畜産農家が減ってきているという大きな課題がある。ここ10年で広島県の畜産農家は20%減っている。ブランディングを進めていく上では、合わせて畜産農家を育てていかなければならないので、取組の方向の中へ文言的に入れてほしい。	第8回	ご意見を踏まえて、修正	【修正後】 ・比婆牛のブランド化によって高まった広島血統和牛のプレゼンスを生かし、神石牛などのブランド戦略に波及させることで、代表的な食資産として「おいしい！広島」を支え、広島和牛全体の需要拡大につなげるとともに、 拡大した需要 に対応できるよう、人工授精や受精卵移植などにより生産体制を強化することで、生産量の増加と流通量の確保に取り組みます。 ・ また、畜産経営の体質強化に向け 、スマート技術の導入や自給粗飼料の確保などにより、外的要因の変化に影響を受けにくい企業経営体の育成に取り組み るとともに、畜産経営者の確保に向け、企業経営体からの独立経営の開始や経営継承を進めます。
94～97	施策領域	農林水産業	・瀬戸内さかなのイベントは良いアピールになっているが、まだ認知には至っていないと思うので、アピールしていくことも取組の方向性に入れていただきたい。	第8回	ご意見を踏まえて、修正	【修正後】 ・ 効果的な情報発信による 「瀬戸内さかな」のさらなるブランド力強化と流通拡大により、代表的な食資産として「おいしい！広島」を支え、漁業経営の収益性向上を図り、担い手の確保・育成につなげるとともに、資源管理や漁場環境の整備などにより水産資源の維持・増大を図ることで、「瀬戸内さかな」を持続的に安定供給できる体制の構築に取り組みます。
94～97	施策領域	農林水産業	・畜産以外にもお米など、農産物は生産者が収入をあげられていないというのが全国的に大きな課題であり、農業に関しても生産者は減ってきている。 ・補助金などではなく、農家も稼げる、ブランディングもできる仕組みにより、広島なら安心して農業ができるというところを取組の方向性として打ち出していただければと思う。	第8回	ご意見を踏まえて、修正	【修正後】 また、若者が魅力を感じる企業経営を実現し、雇用就農者の確保に注力するとともに、 安心して挑戦することができる環境の整備 、企業経営体からの独立 経営の開始 や経営継承を進めることにより、 新規就農者の確保 に取り組みます。
99,100	施策領域	持続可能なまちづくり	・考慮すべき課題では、住民参加型のまちづくりがイメージされている。 ・しかし、地域と連携したという記述は、取組の方向④「地域と連携し、地域の特性を生かしたまちづくりの推進」では言及されている一方で、取組の方向⑦「人を惹きつける魅力ある都心空間の創出」には入っていないが、都心空間の創出も地域住民が関わるのであれば言及してはどうか。	第8回	現行案どおり	・取組の方向⑦に掲げる広島市都心のまちづくりは、「地域が主体となった」エリアマネジメント体制の構築を目指して、県と、まちづくりの権限を有する政令市の広島市が連携して支援しており、「県と地域住民」が連携する」とは意味合いが異なるため、現行案のとおりとさせていただきます。
102,104	施策領域	中山間地域	・地域コミュニティ活動が展開できている住民自治組織の割合」の目標設定の考え方に、チーム500のことが触れられているが、自分も普段チーム500に関わっていて、ここで言及されていることに少し違和感がある。P105の取組の方向の①「地域を支える人材の確保・育成」で言及すべきではないかと思う。	第8回	現行案どおり	・現行ビジョンでは、目指す姿の実現に向けて、「ひろしま里山・チーム500」登録者数を増やすことを通じて、地域の活力創出に資する人材の量的拡大を図ってきました。 ・しかし、改定後のビジョンでは、こうした人材と地域（住民自治組織）との結びつきの強化等を図った上で、地域の課題解決を促していくことが、地域コミュニティ活動の持続性を確保していくことについて必要であると認識し、「地域コミュニティ活動が展開できている住民自治組織の割合」を目標とすることとしました。 ・そのため、これまでの取組を発展的に深化させていく観点から、「ひろしま里山・チーム500」をはじめ」という文言を入れて、見直し後の「目標設定の考え方」を明示しております。 ・また、地域でハブ的な役割を担い、地域を支えていく人材については、集落支援員など、チーム500に限らず多様であり、こうした人材を育成・確保することが必要な取組と認識しております。